

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

News Letter

第2号

「平成28年度第2回市民ボランティア講座」を開催



大河原センター長による開催挨拶

平成28年11月25日(金)、弘前大学ボランティアセンターは、「平成28年度第2回市民ボランティア講座 熊本地震現地調査報告」を開催しました。

本センターでは、東日本大震災発生後の平成23年4月11日より、「チーム・オール弘前」として毎月、岩手県野田村でボランティア活動を行っており、市民ボランティア講座を開催し、より多くの弘前市民や学生がボランティア活動の実状やその重要性を幅広く理解することで、ボランティア活動へ積極的に参加してもらうことを目指しています。

同講座では、平成28年4月14日からの熊本地方を震源とした地震から半年経過した現地の状況やボランティア活動の状況についての報告が行われ、市民・学生・教職員合わせて24名が参加しました。大河原隆センター長から開催の挨拶の後、李永俊副センター長(人文社会科学部教授)

から行われた報告では、熊本地震の特徴、ペットとの同行避難施設、収納機能を備えた段ボールのベッドやコインランドリーの設置等現地の様子が具体的に伝えられ、災害時や災害復興期に問われるのは「地域住民の自治力」であり、「日頃の自治力」が重要であると述べられました。また、台風10号による被害を受けた岩手県野田村、久慈市、岩泉町への支援活動についても「チーム・オール弘前」で実施し、のべ218人が参加したことが報告されました。

引き続き、本センターの活動に市民ボランティアとして参加経験がある気象予報士の藤田淳氏から「平成28年台風10号による災害について」の解説も行われました。解説では、台風10号により大きな被害が出た岩泉町を例に、気象予報士の視点から、降り続く「弱い雨」や「台風の低温化」に注意が必要であること、避難するタイミングについて、自分の住んでいる場所に置き換え普段から考えること、気象情報を確認し避難する準備を万全にしておくことの大切さについて述べられました。質疑応答では、台風の進路予想、予想精度や避難所の管理運営について質問が寄せられ、大変有意義な講座となりました。



解説する市民ボランティアの藤田さん

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・ 弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・ 弘前大学関係者・・・弘前大学ボランティアセンター E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページ、または直接ご来室やお電話でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・ 弘前大学ボランティアセンター・・・HP：<http://huvvc.net/> TEL：0172-39-3268

熊本地震現地調査報告

熊本地震から6か月が過ぎようとした10月9日、被害が最も深刻だった益城町を訪問しました。最初に訪問したのは、震災直後から避難所として使われている益城町総合体育館でした。ピーク時には、1,500名強が身を寄せていたそうですが、訪ねた時は122名が利用していました。体育館の中はダンボールの仕切りとカーテンできれいに区分けされており、プライバシーが守られるような作りとなっていました。また、段ボールで作られたベッドは強度もさることながら、中は空洞となっており、収納スペースとしての機能も果たしていました。その他、体育館の片隅にはソファやマッサージチェアなどが用意されており、少しリラックスできるのではないかと思います。

次に、総合体育館と同じ敷地内にある「ましきまちワンニャンハウス」を訪問しました。ペットと同行避難した被災者から、ペットを一時預かりする施設です。ペットは飼い主さんの心のケアにおいて、大変重要な役割を果たしますが、避難所での集団生活では多くの心理的なストレスを伴います。そのため、ペットを飼っている被災者が避難所ではなく、車中泊を選択したり、被害に見舞われた家の軒先避難をしたりするケースが多くあります。そのような避難者の安全で快適な避難所生活をサポートするために貴重な試みでした。その後には訪問したのは「安永仮設」でした。集会所の前ではボランティアによる茶話会などのチャラが多数張られており、被災者の皆さんの支えとなってほしいと思いました。



プライバシーに配慮された区分け



段ボール製のベッド兼収納



ワンニャンハウス前は屋根付きのドッグラン



道路に大きくはみ出したままのがれき

最後に、被害が最も多かった益城町の中心地区を訪ねました。幹線道路沿いも含めほとんどの家が全壊もしくは大規模半壊でした。路地に入ると両側の家が地滑り方向に倒れており、ほとんどが手付かすのまま残されていました。震災から6か月が経過しているにも関わらず、まったく手付かすの状況に驚きました。住民の方のお話では、人手が不足していることが最大の理由だそうです。益城町の中には住宅解体を専門とする業者さんがなく、住宅を建てる工務店が急ぎょ引き受けているようです。また、遠方の業者さんは、割に合わないという理由で、来ようとしません。人口減少による人手不足が復旧・復興を遅らせている最大の要因になっていることを改めて感じました。大変残念ながら、復興の道のはまだまだ遠いなど、現場を歩いて改めて感じた次第です。

その復旧・復興を少しでも応援したく、震災直後から当ボランティアセンターと市民ボランティアと一緒に募金活動を行ってきました。多くの市民・学生の皆さんから196,893円の熊本地震支援金を預かりました。心から感謝申し上げます。その支援金は、市民・学生の皆さんのご同意を得て、熊本YMCAを通して、被災者と寄り添う復興支援活動に託すことになりました。当センターでは、熊本の皆様が平穏な日常を取り戻すまで、忘れることなく、いっしょに歩いていくことを誓います。

(担当：ボランティアセンター副センター長 李永俊)

弘前市除雪隊結団式へ出席

11月4日に弘前市除雪隊の結団式が弘前市道路維持課敷地内で開催され、今年も出席いたしました。葛西憲之弘前市長から激励の言葉と、記念品として防寒手袋をいただきました。この手袋は除雪ボランティアの際に使わせていただきます。続いて同課の齋藤浩典主任技能技師とボランティアセンター代表の垣内雅仁が誓いの言葉を述べました。ダビデ保育園とサムエル保育園の園児からは花束と「よろしくお願いします」の言葉をいただきました。最後には園児との記念撮影をして結団式は終了となりました。



佐藤さん、園児との記念撮影

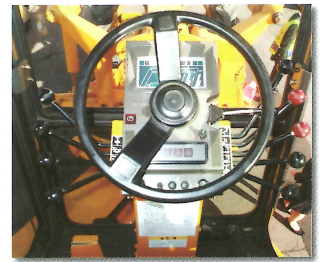
その後ロータリー車に乗らせていただいたのですが、全く運転方法がわからなかったです。使い道のわからないレバーが沢山ついていて、ミラーもなんでそんなところに!と思うような場所に付いていました。自由自在に操り除雪をしてくれる

隊員の方々は本当にすごいですね。この冬もよろしくお願ひします。

ふと園児の方を見ると、自分たちよりも大きいタイヤに夢中でした。みんなで押して動かしてみようとしていて、可愛らしかったです。

今年は雪が多く降ると予想されているそうです。みなさんが安心して通行できるように、気合を入れて除雪活動を頑張りたいと思います。除雪活動の際には、通行車や歩行者の方々、ご協力よろしくお願いします!!

(担当:人文社会科学部3年 平井典子)



沢山のレバーでまさに操縦席



除雪隊の方が着用するジャンパーを着せていただきました

平成28年総合文化祭の活動報告

今年もボランティアセンター学生事務局では「ボランティアカフェ」を10月21日から23日の3日間総合文化祭で運営しました。主な活動は、カフェの企画・運営や活動紹介、野田の物産品販売などです。

今年の特徴としては、大きく分けてふたつ挙げられます。ひとつは、「カフェ」ということを意識して、飾りつけや配置を工夫したことです。去年の文化祭を振り返り、「外から何をやっているのか分かりづらい」「入りにくい」といった意見が出たため、今年はその点に注意して企画しました。そしてふたつ目は、メニュー展開に関してです。今年、アイスなどを取り入れて他と差別化を図ることを目指しました。具体的には、野田村の山葡萄ピューレや野田塩をトッピングしたパフェ、同じくピューレを用いたタピオカヨーグルトなどです。

夏休みから徐々に準備を始め、上記のように新しく取り入れたこともあり準備するものは多かったのですが、話し合いを繰り返し進捗状況の確認もしながら進めたため、文化祭当日に間に合わせることができました。



分かり易く入りやすい雰囲気作り

そして文化祭当日、最後の仕上げを行い開店に備えました。文化祭が開催してすぐは客足も多くなかったのですが、時間が経つにつれ増えていきました。また、2日目・3日目になると、1日目

のクチコミが宣伝効果によるもの、または土日ということもあり多くの人に来ていただきました。予想していたよりも販売スピードが速く、途中で材料が無くなり何度も買い出しに行ったほどです。ただ、忙しくはあったものの、メニューが気に入ったと何度も足を運んでくださった方もいて、とてもうれしかったのをおぼえています。また、学生から家族連れの方など幅広く来ていただいたことで、活動紹介も十分に行うことができ、ボランティアセンターの周知につなげられたと感じます。野田の物産品の方も、野田塩や野田塩クッキーなど例年好評をいただいている品はすぐに売り切れ、他の商品もほとんど完売することができました。

今年文化祭を通して感じたことは、新しく企画した「パフェ」や「タピオカヨーグルト」などの可能性です。リピーターも多く大変好評を得られたことから、来年以降ボランティアセンターの名物となり得るかもしれないという意見も出ました。このようにボランティアセンターの認知が広がっていくことは、今後の活動においても非常に有益なことと考えるため、今年の良かった点・反省点をふまえ、来年の文化祭につなげていきたいと思います。

(担当:人文社会科学部 2年 学生事務局 竹内麻友)



試作品づくりで試行錯誤の様子

外部団体からの依頼実績

弘前大学ボランティアセンターは、自治体や各種市民団体と弘前大学との間に立ち、ボランティア派遣を円滑に行うための仲介機能を果たすこと、またそれを通じて地域社会に貢献することを目的としています。そのため、ボランティアに関するニーズがある場合は、事前に登録をしていただき、ボランティア派遣の要請を当センターに出しただけであれば、所定のガイドラインに沿って学生ボランティアを派遣いたします。以下の実績が今年一年間で実施された外部団体からの要請によるボランティア派遣実績です。貴重なボランティア参加の場を提供してくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。これからもよろしく願いいたします。

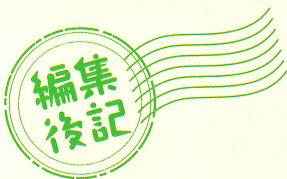
周知依頼

	依頼団体名 活動名	実施日	ボランティア活動内容と人数
1	弘前市立中央公民館 『弘前市子ども会リーダー養成事業』	7月27日～ 7月29日	小4から高3までの参加者の野外活動・班活動など 子ども達の学びのサポート 0名
2	仲町子どもねぶた愛好会 『弘前ねぶたまつり』参加	7月3日～ 8月6日	ねぶた作成、運搬の補助 ねぶた運行への参加 1名
3	「田園」未来を築く会 『どろりんぴっく』	7月24日	出場者のサポート、会場づくり 希望者は競技への参加 確認中
4	弘前グローバル・アクション 『フランス日和～マルシェ 2016』	9月24日	設営、受付、ワークショップやブースの補助、フランス絵本の読み聞かせ 0名
5	青森県教育庁学校教育課 『青森県特別支援学校技能検定・発表会』	11月2日	準備・設営、参加者の受付・案内、検定の補助、片付け補助 4名

派遣依頼

	依頼団体名 活動名	実施日	ボランティア活動内容と人数
1	弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会 『弘前駅前遊歩道賑わい祭 HIROSAKI JAZZ STREET 2016』	6月4日	会場整理、楽器の運搬 ステージの管理補助など 4名
2	よさこい津軽実行委員会 『第17回よさこい津軽』	6月26日	会場設営・撤収作業の補助 踊り子への給水 大会パンフレット販売 会場内通路交通整理 3名
3	障害者支援施設 千年園 『第16回 千年園まつり』	8月20日	利用者の誘導・食事補助等 模擬店(ゲーム・飲食関係)補助 1名
4	弘前城Q&R実行委員会 『第三回弘前城Q&R～津軽隠密忍法帖』	9月25日	クイズ出題兼公園内安全管理 ミッション仕掛け人 おにごっここの鬼 会場の設営及び撤収作業 9名
5	弘前商工会議所青年部 『津軽の食と産業まつり』	10月14日～ 10月16日	抽選会会場での来客対応 バス利用人数カウント 来場人数カウント 他 7名
6	弘前市立中央公民館岩木館 『岩木地区親切カルタ大会』	12月10日	カルタの審判、昼食準備 片づけの補助、児童の見守り等 3名
7	弘前市場まつり実行委員会 『第22回弘前市場まつり』	11月27日	消費拡大prコーナーでの応援 3名
8	弘前市教育委員会生涯学習課 『児童劇観劇会「天狗山のトロップ」』	11月29日～ 12月1日	来場児童の誘導 ホール内の扉の開閉 終了後の忘れ物確認 1名

(担当：ボランティアセンター副センター長 李永俊)



実は、センターを訪れる学生の多くが弘前大学ボランティアセンターの活動について「何をしているのかわからなかった」と言います。訪れるきっかけはボランティア経験のある先生、先輩、友人からの紹介が多数で、災害支援や外部団体からの依頼といった内容に関わらず「一度は経験した方がいい。行って良かった」とすすめられたと。今回「外部団体からの依頼」について、一覧表を掲載しています。簡単にまとめたものになっていますが、募集している方々の熱意など、掲載しきれない情報もあります。この表から、市民の方には学生が地域活動に参加していることを知っていただき、学生にはボランティアに興味をもつきっかけになればと期待しています。ぜひ一度一度ボランティアセンターを覗いてみませんか。

(担当：ボランティアセンター 三上)

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL : 0172-39-3268 FAX : 0172-34-5251 E-mail : huvvc@hirosaki-u.ac.jp